



令和5年度



# 学校だより 2月号

自分大好き みんな大好き ひとみかがやく西が岡の子

横浜市立西が岡小学校 泉区西が岡 3-12-11 TEL 814-3603  
<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nishigaoka/>



## 「ありがとう」は魔法の言葉

副校長 宮台 純子

ついこの前令和6年がスタートしたと思っていましたが、あっという間に1か月が過ぎました。1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」と言われるこの時期は、新しい年の始まりであるとともに年度の締めくくりでもあります。学校でもまとめと次への準備を進めているところです。

さて、4月からどれだけ「ありがとう」が言えたでしょうか。「ありがとう」という言葉は、「有難い」という言葉が語源で、「有ることが難しい」「めったにない」という意味です。

「めったにない」ことに感謝する言葉だったのですが、そこから人に対しても、感謝の気持ちを表す言葉として使われるようになったそうです。

では、「ありがとう」の反対の意味の言葉は何でしょうか。有難いという語源から考えると「当たり前」ということになります。しかし、寝ること、起きること、食べること・・・日々当たり前と思っていることは実は有難いことなのだ、今回の能登半島地震からも思い知らされました。日常生活で何気なく経験している「当たり前」こそ、実は私たちの生活を支え、豊かにしてくれているのだと気付かされました。

私たちの周りには、有難いことがあふれています。でも、それに気が付かなかっただけの当たり前で過ぎてしまいます。また、たくさんの有難いことに気が付いても「ありがとう」と言わなければ相手に伝わりません。「ありがとう」と言葉にして伝えることは、感謝だけでなく、相手の気持ちを受け止めるという思いやりにもつながります。私自身、「ありがとう」をきちんと伝えていこうと改めて思うとともに、子どもたちにも「ありがとう」と言える人になって欲しいと願っています。

「ありがとう」と言われて悪い気分になる人はいません。また、「ありがとう」の言葉は、相手だけでなく、言った自分も不思議と心が温かくなり、笑顔になります。「ありがとう」を日常的に使用することで、優しさや感謝の気持ちが育まれ、周りの人との関係も良好になります。まさに、幸せを運んでくれる「ありがとう」は魔法の言葉だといえます。

地域やご家庭の皆様にもたくさんの「ありがとう」をお伝えしなければなりません。多くのご支援ご協力をいただき、ありがとうございます。これからも、学校・家庭・地域の間で、日常の「当たり前」を「有難い」と感じる心を共有し、「ありがとう」の言葉で、「チーム西が岡」のつながりを強くしていきたいと思っております。引き続きよろしく願いいたします。

